2023 年度
離島留学生
体験談

寝屋子の島留学を体験されているご家族にお話を聞きました。

①寝屋子の島留学を知ったきっかけは？

鳥羽市の答志島は国内外の研究者たちの間でも寝屋子屋制度、海女文化などについて学術的な価値が広く知られています。韓国と日本でこの島を研究しようとする人々を母がサポートしており、母と一緒に島に訪問した時、離島留学に関するポスターを見て興味を持つようになりました。

②留学を決めたきっかけは何ですか？

以前の学校は約 1000 人の大規模な学校で、多くの人々の中で自分がどんなに存在感が薄かったかという感じがしました。しかし、答志島の学校は少数の生徒がお互いに教え合い、仲良くしているだけでなく、自分のことをより深く考えるきっかけとなりました。村には「ねやこや」と呼ばれる場所があり、そこには全国の大学生たちを含む様々な人が訪れ、子どもたちと遊ぶだけでなく、さまざまな海洋プログラムもありました。また、島は鳥羽港から 15 分以内で到着でき、大阪までの電車や高速道路が便利につながっていたため、島であっても交通が便利でした。自然環境が美しく、住民は閉鎖的ではなく、外国人にも親切でした。さらに、家族留学生向けに提供される住居は、広々とした 2 階建ての一軒家で、非常に清潔で、食器からゴミ袋まで、すべてが整っていました。

③来る前の島や学校の印象はどうでしたか？

島の祭りで出会った村の男性たちは正直怖かったです。都会とは異なり、日焼けしているおじさんたちが祭りで大きな声で喧嘩している光景（後で分かったのは実際には喧嘩しているのではなく、その演技が儀式の一環だったということでした）はとても怖かったです。しかし、飲食店のおばさんたちは本当に親切に話してくれて、子どもたちは驚くほど純粋で従順で、この島は本当に平和な場所だと思いました。村の人々はお互いに助け合い、話をして、村の一員として受け入れてくれます。健康体操、歌のクラスなどのグループ活動や歓迎会、子どものスポーツクラブ、生徒会などのイベントも多く、いつも人々が元気な雰囲気でいる感じがしました。

④島留学に来てみて子どもの様子に変化がありましたか？

主に YouTube やスマートフォンを見て家にいることが多かった子どもたちが、朝には村の人々と一緒にラジオ体操をし、集団で登校し、学校が終わった後には釣りをし、剣道も学びながら、人々と一緒に共存する方法を学んでいます。私たちには海は溺れそうで恐ろしい存在でしたが、今では水に浸かっても泳いで出られることを知って、単に怖がっている空間ではありません。海の中には多くの生物が生息しており、神秘的で素晴らしい空間であることを知りました。

⑤島留学を考えている人にアドバイスがあれば教えて下さい。

1 年は短い期間ではありません。数日の観光と 1 年間の滞在は大きな違いがあり、都市で過ごしてきた学生にとっては、適応にはかなりの時間がかかることもあります。海岸の四季は美しい一方で、日常では冬の風や夏の台風など、不安を感じることもあります。また、漁業が中心の村では都市とは異なるライフサイクルが存在し、価値観や生き方、人間関係が異なると感じることでしょう。24 時間営業のコンビニやファーストフード店など、公共交通機関に慣れた子どもたちにとっては、施設のない生活が不便に感じられることもあります。これらすべての多様な側面が個々の人にとって否定的な影響を与え、ストレスや負担を感じる可能性もあります。生き方には一つだけではないことを理解し、適応できる時間と開かれた心が必要です。また、村の人々はいつでも助けを提供しようとしていますが、子どもや移住者が最初に積極的に手を差し伸べない限り、お互いに交流することは簡単ではありません。都市のマナーに慣れている子どもたちにとって、他人に助けを求めることは簡単ではないかもしれません。人々との安定した距離感を見つけるために、お互いに助け合いながら生活する練習が必要です。